

《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

《担当者名》○小林正伸 浅香正博 齋藤晶理 河野豊

【概 要】

医学を学ぶ目的を明らかにし、疾病・障害の発生予防、患者・障害者の救済と権利回復、次世代の健康保持の観点から現代医療の全体像を俯瞰し、理学・作業療法士が現場において高頻度に遭遇する現代医療の項目について、リハビリテーション科学を臨床で実践するために必要な知識を学ぶ。

【学習目標】

一般目標：医学の歴史と意義を修得する。

行動目標：前半で、医学の発展に対する基本的な知識を習得するために、広い見地から重要な疾患の歴史を解釈する。また、後半では様々な疾患の病態生理を理解し、臨床で行われている実践面での知識を習得するために、重要な領域を資料を基に解釈する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	医学はどのようにして進歩してきたのか？	医学の歴史を振り返り、医療の原点に触れる。現代の医学の進歩によって何が変わったのかを考える。一例として胃潰瘍という病気の歴史を振り返る。	浅香正博
2	わが国の医療の現状	わが国の医療は国民皆保険、フリーアクセス、高度な医療を低医療費で提供しているという特徴を有している。しかし近年、医療費が膨張しこのままの形で医療を継続できるかわからなくなっている現状を学ぶ。	浅香正博
3	がんの予防はどこまで可能か？	がんは遺伝子の異常によって発生するが、この異常を引き起こす最も大きな原因が加齢である。がんの原因は生活習慣由来と感染症由来に分けることができる。予防できるがんをしっかりと予防する重症性を学ぶ。	浅香正博
4	胃の病気はどうして起こるのか？どうやって治すのか？	胃の中には胃酸が存在し、細菌の侵入を防いでいるが同時に胃の粘膜を傷害する可能性がある。胃の病気を引き起こす細菌としてピロリ菌が発見された。ピロリ菌を除菌することで多くの胃の病気が予防できることがわかってきた現状を学ぶ。	浅香正博
5	人類への進化と疾患	現生人類への長い進化の過程において、様々な能力を獲得してきたが、それに伴って様々な疾患が新たに登場してきた。それらについて学ぶ。	小林正伸
6	文明の進歩と疾患 (課題提出)	文明の進歩の過程において新しく登場した様々な疾患についてレポートを提出する。	小林正伸
7	循環器の構造と機能と病態の概要	循環器は、全身の様々な臓器に血液を送るポンプとして働いている。循環器を構成している心臓と血管の整理と病態について学ぶ。	齋藤 晶理
8	肝臓のその機能と病態の概要	肝臓は内臓で最大の臓器でその機能は多岐にわたる。肝臓の生理および病態について学ぶ。	河野豊

【評価方法】

レポート：講義の中からテーマを一つ選び、1200字程度に感想と意見をまとめて提出する。

【備 考】

参考書：浅香正博 著 「がんはどこまで防げるのか」 創英社 2014年
浅香正博 著 「胃の病気とピロリ菌—胃がんを防ぐために」 中央公論新社 2010年
ステルペローネ、ルチャーノ 著 「医学の歴史」 原書房 2009年
川喜田愛郎 著 「ちくま学芸文庫 医学概論」 筑摩書房 2012年

その他 : NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.4「壮大な化学工場-肝臓-」NHKエンタープライズ 2003年

【学習の準備】

医学の通念を理解するための社会的知識を学ぶ準備を行う（自宅で予習80分）。授業後に自宅で80分の復習を行い理解を深める。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

小林正伸（医師）、浅香正博（医師）、齋藤晶理（医師）、河野豊（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

病院医師としての実務経験を活かして、実践的教育を行う。